

猪俣弘司氏講演内容

1971年高校校3年の春、都大会の決勝トーナメントでコイントスで敗北し、サッカー部の活動に終わりを告げ、大学受験、将来の進路についてようやく考え始め、深い知識も無いまま、国際関係の仕事をしたという気持ちだけで外交官になりたいと思うようになりました。大学受験では苦労しましたが、運良く大学在学中に外交官試験に合格することが出来、78年4月外務省に入省しました。

40年強の外務省勤務のうち、本省、在外勤務はほぼ半々で、外務省ではアジア、日米安保、条約関係の仕事が多く、在外では英国二回（研修も含む）、タイ、米国二回（ワシントン、サンフランシスコ）、韓国、パキスタン、オランダの6カ国に滞在してきました。それぞれの勤務においては、仕事の難しさに直面しながら、当たり前と言えども当たり前ですが、基本は立場の異なる者との信頼関係の構築、人間関係を如何に築くかということであると実感しました。

国内社会とは大きく異なり、独立した主権国家が併存する国際社会は、同意原則を基本としており、自国にとってより有利な合意を形成するための諸活動が狭義の「外交」であり、二国間関係、多数国間関係においても国際協調を図りつつ、如何に自国の国益を守りさらに増進していくか、各国が鎬を削っているのが「外交の世界」といえます。

講演では、現下の国際情勢を解説するのではなく、私自身の40年強の外務省勤務の経験を踏まえて、実際に二国間外交・多数国間外交はどのように進められているか、具体例に触れつつ「外交の世界」を紹介できればと考えています。